

「文筆家やライターは文字で、政治家やキャスターはことばで、画家の私はどちらも持ち合わせていないので、イメージで自分を表現する」と宣言し何年か経った。

その原点は約二十年前である。公募展に出品し始めて五年後で、当時私は廃船や、荒れ果てた舟小屋、漁村の集落を「漁村シリーズ」として描いていた。賞も得てきたが自分の心の中では何か物足りない。それは何か。私は百姓をしたことはあるが、漁師をしたことはない。まだ漁師の気持ちになりきっていない。つまり表面的に見えているものを描いているに過ぎないことに気が付いたのだ。

そんな訳ですぐ漁村シリーズに区切りをつけた。ただやめた時、次は何を描こうかと随分悩んだ。私の生きてきたこと。私が伝えたいこと。それをイメージでどう表現するか。しばらく絵筆を持つことが出来ず、生活パターンさえも変えてみた。

私のそれまでの仕事はコンピュータ関連が中心だった。行き着いたところが、職場のゴミ箱に捨てられていたケーブルやスカジーボードのたぐいであった。それを私なりに配置し、ハイテクの便利さを演出する自己を表現し、一方では便利さゆえの脆弱さを表現してみた。「ハイテクノロジー・ITシリーズ」の始まりである。それは私自身の生き様そのものだった。

現在描いている「非戦シリーズ」は約七年前、当時の安倍首相が「九条を改正したい」と言ったことから始まる。エッ、エッ、日本人三七〇万人以上の命と引き換えに手に入れた世界に誇れる憲法なのに。決してGHQの押し付けではない。最後には日本人が「YES」と言ったのだ。

私はそれ以来、回天の大津島、沖縄健児のガマ、原爆ドームの内側、長崎の一本足鳥居、被爆建物の中から、被爆後翌年咲いたと言われる夾竹桃、被爆アオギリと二世など前の大戦の遺跡や、ヒロシマ復興のシンボルを描いて、先の大戦から私達は何を学ぶのかをイメージで問うてきた。

現憲法の「非戦の誓い」を、時間はかかってもイメージで伝えていきたい。ところだが、安倍首相の再登板で風雲は急を告げている。イメージだけではないストレートに文字でも伝えたい。私はあせっている。

~~閑話休題~~先々月萩に帰省した時、あるホテルに「山口県出身首相」の似顔絵が並んでいた。一番最近「菅直人首相」である。その前が「安倍晋三首相」である。これをとやかく言う筋合いではないが、菅直人氏は宇部市に住んでいたことがあるが、安倍晋三氏は山口県で一度も生活したことがない。東京生れ、東京育ち、せいぜいご先祖の墓所がある程度の落下傘であり、山口県出身とは言えない。でもこれ自体は問題ではない。首相退陣後SPもない新幹線の中で、「がんばってください」と握手した自分が恥ずかしい。